

食と農の研究ニュース

開催期間が残り僅かとなった大阪・関西万博ですが、ますます多くの入場者が会場に足を運ばれています。環農水研は、2025年8月4日(月曜日)に大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージで行われた催事「大阪産(もん)を食べて元気になろう！大阪産(もん)のおいしい食べ方・楽しみ方」に2回目の出展を行い、研究成果を紹介しました。今号も、その出展内容を中心にお届けします。

万博その1 大阪オリジナルぶどう「虹の雫」をPR

環農水研が育成した大阪オリジナルぶどう「虹の雫」の展示と試食を行いました。

「虹の雫」は、収穫時期や栽培方法により果皮色が変化するのが特徴です。育成からおよそ50年の時を経て、2023年8月から「虹の雫」の商標で発売が開始されました。芳醇な香りと、甘く濃厚な味わいを楽しむことができ、多くの皆さんから高い評価を受けています。

試食いただいた方からは、「とても甘くて美味しい！」「どこで買えるのか知りたい！」「色が違うけれど、同じぶどうなの？」などのコメントをいただきました。

葡萄グループでは、「虹の雫」の栽培技術に関する研究を進めるとともに、関係機関と連携し、より多くの皆さんに「虹の雫」のおいしさを知っていただくため、PR活動を行っていきます。

(葡萄G 古川真)



大阪オリジナルぶどう「虹の雫」



万博会場での展示

万博その2 展示中のアクアポニックスで研究成果を活用

飼養技術開発グループでは、おからなどの食品製造副産物を昆虫アメリカミズアブの幼虫に与え、大きく成長した幼虫をたんぱく源とした魚の餌を製造する研究を行っています。その研究成果が、大阪・関西万博の大阪ヘルスケアパビリオンの隣にあるアクアポニックスで活用されているので紹介します。

アクアポニックスとは、植物を育てる水耕栽培の肥料として、水槽で飼育される魚の糞を活用するといった、資源循環型の植物栽培、魚類飼育方法です。今回は、育てた植物の残渣もアメリカミズアブ幼虫の飼料として使用し、その幼虫から魚の餌を製造する究極の資源循環が実現しています。

アクアポニックス内の上部ではミニトマト、リーフレタスなどを水耕栽培で育て、下部の水槽でニジマス、トラフグなどを飼育しています。

会場にお越しの際は、ぜひアクアポニックス「いのちの湧水(いずみ)」にお立ち寄りください。

(飼養技術開発G 谷本秀夫)



万博会場で展示中のアクアポニックス

「いのちの湧水(いずみ)」

(左:昼間の様子、右:夜間ライトアップ)

万博その3 共同研究成果「減塩水なす漬け」を来場者に試食アンケート

食品グループでは、堺共同漬物株式会社と共同で「塩分を減らしても味に納得感がある水なす漬けの製品化」に取り組み、旨味やコクを加えることができる昆布だしを用いた減塩漬物の製造条件を明らかにしました。

大阪・関西万博では、新開発の減塩水なす漬けと通常の水なす漬けを食べ比べてもらい、減塩漬物に対する、試食前の印象と試食後の感想についてアンケートを行いました。

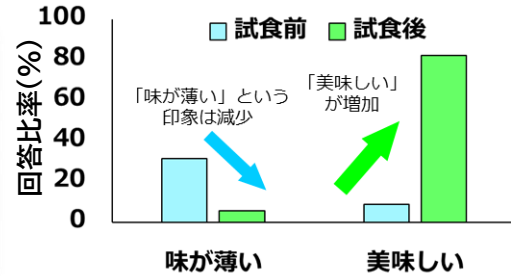
減塩水なす漬けの試食前は「味が薄い」と思っていた人が約3割いましたが、試食後には1割未満まで少なくなりました。また、試食後は8割の人が「美味しい」と回答し、減塩水なす漬けは、「塩分を減らしても味に納得感がある」ことが示されました。(食品G 高井雄一郎)



試食の様子



試食用の「減塩水なす漬け」



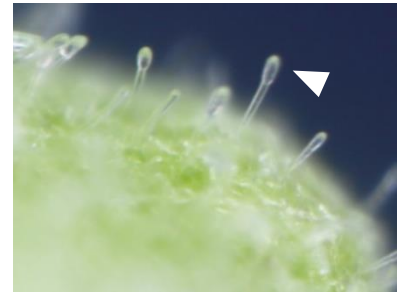
減塩水なす漬けに対する
試食前後の印象の変化

トピックス アブラナ科野菜の病気「うどんこ病」

ハクサイ、カブ、キャベツ、ダイコン等のアブラナ科野菜で、うどんこ病の発生に注意してください。

この病気は、春先や秋口の冷涼で乾燥した気候で被害が拡大しやすく、葉上に白い粉をふりかけたような症状が特徴です。

発生が進むと葉が枯れてしまい、防除が困難となります。野菜類に登録のあるカリグリーン水和剤、サンクリスタル乳剤、サフオイル乳剤等で早期に防除する必要があります。(防除G 田中貴幸)



アブラナ科野菜(ハクサイ)のうどんこ病と拡大図
(白矢印:先端に孢子を形成する)

食・農分野での最近の主なイベント、研究成果情報等

<イベント>

- ・2025年度大阪農大(養成科総合課程)オープンキャンパスを11月3日(月・祝)に開催

<論文>

- ・「Multipurpose small collaborative robot for smart viticulture: concept and design.」 Acta Horticulturae 1418,165-172

<学会発表>

- ・「水ナス促成・半促成栽培での加温の有無が収穫開始時期と初期収穫果実重に及ぼす影響」
令和7年度園芸学会近畿支部大阪大会
- ・「大阪府におけるナスうどんこ病のSDHI剤感受性とアジュバンド加用による防除効果の向上」
令和7年度日本植物病理学会関西支部 など多数

<外部資金>

- ・「経営体の生産基盤強化に貢献する複数台木苗を活用した施設水ナスの増収・安定生産技術の確立・実証」
令和7年度「オープンイノベーション研究・実用化推進事業(現場課題解決タイプ)」に採択

論文



【食と農の研究ニュースに関するお問い合わせ先】

地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 食と農の研究部

電話:072-958-6551(代表) または [お問い合わせフォーム](#)まで →

